

会長の時間 ●富田会長

8月31日はガバナー補佐アッセンブリーとなっていますので、本日の会長の時間は、その対策として、当クラブの危機管理体制に触れたいと思います。

当クラブの危機管理体制は、数回の協議を経て、2月の理事会で、その業務内容として、「①危機の予防、或いは危機への適切な対処を図るべく、定例的に危機管理に関する会員啓発を行う。②危機の発生に際して適時に状況・事実関係を（必要に応じて外部専門家の協力を得て）把握し、理事会に報告して対応を協議する。③上記の実効性保持の為に、適宜、地区との擦り合わせを図り、必要な情報収集を行う。」ことに決まりましたが、3月の理事会に於いて、『(意思決定、専門性、情報アクセスの観点から)新たな危機管理機関(「危機管理担当者」ないし「危機管理委員会」)の設置を要するとは考えられず、むしろ現行の運用通り、会長・幹事中心に理事会が活動・対処するのが良い。』と結論されました。

これらは、理事会の議事録にあります。クラブの諸規定に無い為、ここで会員の皆様と共有したい情報です。そして、諸規定に無い理由は、本来、理事会が危機管理を所轄する立場にある為、改めてこれを表明することは不要と解釈されているからです。

現代社会は、自然災害、ハラスメント、環境、戦争など様々な危機に満ちていますがロータリーも例外ではありません。これに加え、会員減少による事業継続の危機やそれに伴う財務的危機などが考えられます。矢野PGは、『ロータリーの「危機」とは、ロータリーにとって好ましくない事態全般をいい、自然災害や人災、不祥事も含むとする。また、ロータリーの行動規範はロータリー会員の公私に亘る行動全般に適用されるもので、ロータリー活動に限定されない』と説明されています。

以前から、ロータリーでは青少年に対するハラスメントに熱心でしたが、近年、2680地区のクラブでメンバーの軽率な行動がロータリーの高潔性に背き大事件となったことがあります。これはロータリー活動外の事件でしたが、ロータリーが対応したことを銘記すべきです。

また、ロータリーは、DEI活動の一環として、多様性を重視していますが、ハラスメントの多くは、多様性に対するバイアスから来ることが多い為、これこそ「ロータリーの寛容の精神」を以て解決しなければならないと思います。

そして、私は当クラブにとって「今そこにある危機」は会員減少と認識していますが、会員減少防止の解決策として多様性を真摯に考えるべき時だと思えます。

いずれにしても、危機管理体制は、転ばぬ先の杖で、整備する必要があるものの、発動しないのが何よりもクラブにとって望ましいことであることは異論の無い処です。

今月26日、地区の危機管理・青少年奉仕セミナーに森口会員と参加致しますが、また報告する内容があれば改めて別の機会にご披露させて頂きたいと存じます。